



### ◆先生たちからのメッセージ号です◆

ようやくの梅雨明けで暑くなってきましたね！体調や生活リズムを崩したりしていませんか？7月号ではアンケートへのご協力をありがとうございました。アンケート回答を見て、学生の皆さんがこの大変な状況に色々な知恵や工夫を生み出してがんばっている姿が目に見え、いっしょに頑張っていきたいという思いが深まりました。そして、この前期、先生たちもまた遠隔授業に懸命に対応しながら、対面と比べてどうしても学生の皆さんへの思いや心配を伝えにくい状況にありました。少しでもそれを届けられたら・・・というわけで、今回の「期末特別版」をお届けします。

◆以下の4つの質問に、5学部の学部長 + 1名の先生に答えてもらいました◆

#### <先生たちへの質問>

- ①この前期、授業作りで工夫したことや試行錯誤したことを教えてください
- ②「遠隔授業ならではの」発見や、良かったことがあれば教えてください
- ③いま学生達に伝えたいこと、たずねてみたいことがあればお願いします
- ④期末に向けて、また夏休みや後期に向けて、学生達へのメッセージを！

#### <回答してくれた先生たち>

\*は学部長

芸術学部	佐藤光儀先生*	中川裕孝先生
デザイン学部	森原規行先生*	岸本敬子先生
マンガ学部	姜竣先生*	おがわさとし先生
人文学部	岩本真一先生*	磯辺ゆかり先生
ポピュラーカルチャー学部	安田昌弘先生*	落梟子先生

## 芸術学部

佐藤 光儀 先生（造形学科・1年次共通体幹教育担当）

- ①Zoomによる「課題導入説明」「質問コーナー」「作品発表」「課題フィードバック」が授業の柱ですね。課題導入説明のためにYouTubeに動画を上げたり、ゲストを招いてライブ配信したり様々ですが、Zoomでリアルタイムな課題導入説明を基本としながら、それを録画した動画をアップしてZoom参加できない学生も見ることが出来るように配慮しています。各課題作品のフィードバックは簡単なスライドショー動画にしています。わりと初期のころから、「作品について意見交換したい」という学生の意見があり、希望者による意見交換会も行っています。**積極的な学生の意見がありがたかった**ですね。後半になってからは希望者だけではなく、ほぼ全員による作品発表の機会を設けていて、作品片手にコンセプトなどきちんと発表してくれています。試行錯誤は・・・あげればキリがありませんが(笑)、担当教員8名で日々Zoomミーティングを開いて乗り越えています。心強い仲間なので有難く思っています。
- ②**遠隔授業など最先端かつ未知の存在だと思っていましたが、あっという間に現実**になりましたよね。対面授業が始まってからうまく活用できる場面がある気がします。ただ、「対面じゃないとできないこと」を改めて認識して整理しておく必要があるのかな？と感じています。
- ③遠隔授業の方法について、客観的に良い点・悪い点を比較・判断できるのは学生の皆さんなんだろうなと思っています。**教員はある種の使命感を持って遠隔授業を行っています、気づいていない改善点があるはず**です。どうぞ優しく授業アンケートでお答えください。
- ④皆さんが課題提出に追われるように、僕もメールや資料作成がたまってしまう。週の後半に未読メールを開けては資料確認と返信を繰り返してはいますが、手ごわそうな仕事も日曜までには片づけないとー！  
皆さん、どうか一日一つは楽しいことを見つけ、何もなさそうなら美味しいものでも食べ、気分の良い音楽でも聴き、笑顔を作って、できれば声を出して、天気良ければ青空を見上げて、孤独感から解放される時間を過ごしてください。皆さんに直接会えることを願ってます。では！

## 中川 裕孝 先生（造形学科 テキスタイル専攻）

- ① 普段の6～7割の結果が得られればよしという前提で、授業内で終わらせられる課題のボリュームを考えた。家での作業の手本になるように、推奨するテクニックを実演し、動画を作った。学生個々のスケジュール管理を徹底した。
- ② 学生個々を思い浮かべ、考え方や製作途中の作品をイメージして、的確と思えるアドバイスを日々探す癖がついた。遠隔の個々のやり取りの方が、アドバイスに素直に耳を傾ける学生がいたり、表現の幅が広いことに驚いている。顔が見えない分、大袈裟に褒めていたら、少し褒め上手になった気がする。
- ③ 運動してますか？ 歩く、走る、自転車も良い。読書はしてますか？ 運動に読書、どちらも日課にしたら気持ちの切り替えにもなるし、生活のリズムが作れるのでお勧め。
- ④ 今年の夏は酷暑が予想されています。**何をするにも心と体の健康が第一。なるべく力半分でゆるくいきませんか。**アルバイトを沢山しなくてはならない学生もいるでしょう。それ以外の時間は好きな事を思い切りやって下さい。



## マンガ学部

### 姜 竣 先生（マンガ学科 カートゥーンコース）

- ① 対面授業とは使える資料、資料の使い方が異なるので、相当工夫＝苦労しました。
- ② 通常の講義では、アドリブでつなげていた話題と話題が、どうもうまくつながらなくなっていて、それを見つめなおすことができよかったです。
- ③ 家に閉じこもり、人に会わず、単調な生活をしていることが**心身両面に影響をきたしていないかが心配**です。みんな、どうですか？
- ④ **規則正しい生活と体力を取り戻して、後期に備えてほしい。**

## おがわ さとし 先生（マンガ学科 ストーリーマンガコース）

- ① クラスプロファイル以外に LINE、Zoom、メール、電話、その他様々なツールを試しました。課題提出型の授業はフィードバックをいつもより丁寧にしたつもりです。
- ② とりあえず Zoom には慣れました。あと、文章にすることで自分の考えを明確にすることが出来たのはよかったです。
- ③ 特に1回生は友だちを作りにくいのが気の毒だと思っています。大学の醍醐味の一つは友だちを作る事なので、その分、**一人の時間はたっぷり持たはずなので、その経験を今後に役立ててほしい**と思います。**孤独は人を育てます。**
- ④ 夏休みといっても出歩くには抵抗があると思います。まとまった読書をしたり家で映画を観たりしましょう。家で出来ることはたくさんあります。新型コロナ下の夏を**積極的に楽しんでください**。後期、対面で会えることを楽しみにしています！



## デザイン学部

### 森原 規行 先生（VD 学科 ビジュアルデザインコース）

- ① 実技系授業は3コマ授業が多く、対面のように3コマ続けて行くと非常に疲れてしまうので、1コマの中に、レクチャー、実技、フィードバックなどバランスよく入れ、これらを繰り返しながらお互いの疲労を軽減するような授業運営を行いました。
- ② 個人面談においては良い点が多いと思います。お互いがデバイスを通してのコミュニケーションだからか対面とは違い**話しやすい環境ができた**と思います。またそれでも話しにくい場合はメッセージやLINEなどで言葉でもコミュニケーションが取れるなど、**コミュニケーションに選択肢が生まれた**のは良いことだと思います。実技授業では画面共有を活用することで**ツールの使い方などシームレスにストレスなく伝えることができました**。これも遠隔授業のメリットだと思います。

③前期は大学に来なくても学ぶ事が出来ました。今後、大学に来る意味や施設や教室などの場所の意味や価値が変わって来るように思っています。皆さんはどう感じますか？

④今後、授業、就職活動、就職、創作活動などにおいて、距離や進め方や価値など全て変化します。**この変化を恐れず柔軟に対応し、行動して解決**してください。

### 岸本 敬子 先生（イラスト学科 イラストコース）

①ZOOM 授業は基本的に一方的になるので、尺の調整や段取りに対する試行錯誤がありました。あとは、対面では伝わりやすかったものが、音声だけになると課題の意図も伝わりにくくなるので、映像や画像で補足するなどの工夫もありました。

②教室に大勢集まって講評していたりすると、後ろにいる人の声が聞き取りにくかったり、声が小さい人が大変なことがあります。ZOOM では声を張らなくてもちゃんと落ちて伝えられているのは良かったかなと思います。人前で話すのは誰でも緊張するので、その余計な緊張シーンがなくなっていたのは良かったかもしれません。



③大学の施設も設備も使えず、学祭も中止でサークル活動もままならない状況で、理不尽なことばかりが降り掛かってきます。みなさんが抱えているストレスは察するに余りあるものと思います。しかし、憂いてばかりもいられませんので、できるだけポジティブに、この状況だからできること、このタイミングでしかできないことを見つけることに気持ちをシフトしてほしいなと思います。どんな状況でも自分を「楽しませる」ことを忘れないでほしいなと思います。

④無理せず、とにかく好きなことをやってほしいと思います。

## 人文学部

### 岩本 真一 先生（総合人文学科 歴史専攻）

①とにかく、授業の水準を下げないことに腐心しました。20 名以下の講義・演習では基本的に Zoom を利用し、できる限り対面授業と同じ内容を伝えられるよう、レジュメ・資料・パワーポイントなども併用しました。いや、本当に疲れました（まだ終わっていませんが）。

②**大学は学生がいなければ名実ともに成り立たない**、ということが再認識できたことでしょうか。人間は聞いている人がみえない状況では話すことができない、という当たり前のことに改めて気付かされました。

③物事の特質というのは、極限状態になったときにこそ表われます。そういう意味では、現在は社会や文化の特質が、最も明瞭になっている時期だということもできます。**社会の、あるいは学問の特質とは何か、いまこそじっくりと観察・考察してもらいたい**と思います。

④私たちは、何かを「しない」理由を探すことが得意です。ですが、こういう状況・時期だからこそ、何かを「する」理由を探し、実行してみてもどうでしょうか。普段はしないことをしてみる、いつもは読まない本を読んでみる、これまで行ったことがなかった場所に行ってみるなど、できることは山のようにあるはず。で、「できないこと」を嘆くのではなく、「できること」に**全力で取り組んで欲しい**と思います。

### 磯辺 ゆかり 先生（総合人文学科 1 年次必修科目「英語」担当）

①「顔の見えない」環境の中で、不安を感じないように分かりやすい授業の進め方や説明を心がけました。文字だけの説明ではなく、写真や図表を加えて、課題の取り組み方や提出方法の手順を明記しました。課題提出の入力作業に時間がかかるという声を受けて、「課題テンプレート」を作成して配布し、**心と身体の時短**を目指しました。

②「学習は意図的な反復である」という言語学習の本質をとことん追求できたこと。日頃、**限られた空間と時間の対面学習ではなかなか実現できない「自分のペースでの取り組み」が実現できた**ことは皆さんにとってもプラスの経験になったのではないかなと思います。

③自由な時間がありそうで、実はブラックな課題に縛られた気分になっていた人も多いのではないのでしょうか？辛くなったら正直に音（ね）を上げることをオススメします。ついたらめらってしまうのなら、まず音（おと）を聴きましょう。好きな音楽でもいいです。せせらぎや風の音でも。

**あなたの世界は「課題」だけではない。**どうかなると、信じてください。どうかなります。

④みなさんにとって、そして教員にとっても「遠隔授業」はお互いに未知の領域です。初めて出会う「山」を手探りしながら共に歩くような経験です。みなさんの体調や心情を探りながら、試行錯誤を重ねる日々が続きます。そこで、みなさんにお願ひがあります。**ちょっとしんどいなと感じたら、遠慮なく声を上げていってください。**初めての経験に戸惑われることもあるかもしれませんが、遠慮は全くいりません。なぜなら、**みなさんが学びの「主役」**だからです。

私たち教員は、その豊かな学びを助けるサポーターであり、新たな学びの世界へのナビゲーターでもあります。「遠隔学習」というちょっと大変な登山で、道標が分かりにくかったり、道が凸凹で歩きにくかったら、いつでも遠慮なく声を上げていいのです。恐れることはありません。

私たちはいつもよりさらに耳を大きくして待っています。

みなさんの声を聞かせてください。

私たちはその声にも必ず応えます。



## ポピュラーカルチャー学部

安田 昌弘 先生（音楽コース）

①講義科目を担当したので、**とにかく一方通行にならないようにしたい**と考えて、最終的に音声付きのスライドファイルを使うことにしました。これだと、好きな時に勉強してもらえるし、自分の操作でスライドを前後に移動出来るので、学生が自分で進度をコントロールできるからです。あとは、スマホでストレスなく再生できるように文字を大きくしたり、家族や同僚にお願いしているような機種をつかって上手に表示されるか試したりしました。

講義室での対面授業は音楽でいう「ライブ」だとしたら、ウェブを使った遠隔授業は「レコード」

という感じになると思います。喋り終わったら終わりのライブと違い、レコードは何度も何度も聴き直されるものなので、**何度も見直されることを意識してスライドを作りました。**それが思ったよりも大変でした。マイクを変えてみたり、コンプレッサーをかけたりイコライザーを使ったりして、声質を微妙に調整しています（この辺は音楽コース教員あるあるかな）。

②こまめに質問やコメントに返事をしていたこともあって、実は普通の講義とは比べものにならないくらい**一人ひとりの受講者と向き合えた**と思います。全体の進み具合も緻密に把握できて、どこがどうわからないのかもよく見えてきました。

それからやっぱり、「遅刻」という概念がなくなった。色々きつくて授業に顔をsausなくなってしまうような学生たちも、オンデマンド化したら毎回顔を出してくるようになったのが嬉しかったですね。Covid19とは関係なく、こういうやり方は通常の授業でもありじゃないかと実感しました。

③今日の課題をこなすのにいっぱいいっぱいだとは思いますが、**芸術家として、デザイナーとして、今の状況から得られるヒントはたくさんある**と思います。

Covid19の影響で、今まで当たり前だと思っていたいろいろなことができなくなったり、制限されたりしていますが、その一方で、これまでは考えられなかった様々なことが行われるようになったり、出来るようになったりもしています。例えば他者との接触や公共空間の使い方が規制される一方で、家族が家で常に一緒にいるような状況が生まれたり、経済活動が停滞して空や海が綺麗になったりもしています。Covid19によって不自由になったことと可能になったこと、それについて自分はどういう立場をとるべきだと思うのか、忘れないうちに手元にメモしておくと思います。

④コロナウイルスの問題は、半年とか一年というスパンで解決するものではなさそうな感じですが、場合によっては3年とか5年経たないと完全な事態収束はないというような話も出始めています。単純な筋書き（ある時期が来たら全てが元通りになる）ではなく、もっと複雑な展開を想定して生きていく必要が出てきているということです。**複雑な展開の先に何を想像できるか、今よりもよい世の中を構築できるか、実は全部、わたしたちがこれから何をするかにかかっています。**そのためにはコツコツとトレーニングを積み重ねていく必要がありますね。一緒に頑張りましょう。

## 落 兎子 先生（音楽コース）

①授業の動画をたくさん作りましたが、学生のみなさんが1秒でも短い時間で視聴できるよう、「あー」とか「そのー」とか、クセでつい言ってしまう余計なギャグとかを全部切って捨てて繋ぐ毎日を送っています。おかげで編集スピードが格段に上がりました。最初はタイトルが動いたりとか、画面の切替も一回ずつパターンを変えたりとか、無駄な装飾に時間をかけていましたが、大量の動画を短期間に作る必要があってそんなことやってる場合じゃなくなったので、ずいぶんシンプルになったかと思います。

②コンピュータの操作方法を解説する授業が多いのですが、対面の時には、操作画面が後ろのほうの学生にちゃんと見えているのか、音もちゃんと聞こえているのか実は不安でした。その点、少し安心です。あとは、私の広島弁イントネーションが留学生のみならず、関西の学生にも通じているかどうか不安でしたが、YouTube だと自動で字幕もだせるので！きっと分かってくれるのではと期待しています。また、動画をいつでもみられるところに置いておくと、**質問が来たとき、「あの動画の何分のところで言ってるからもう一度復習してみてね」とアドバイスすることもできます。**通常の授業でこのような動画を作ることはまずないのですが、意外な発見でした。

③「**ご飯ちゃんと食べてる？**」っていうのは、ZOOMなどで会った学生には大抵聞いています。特に一人暮らしの学生さんや、今年の入学生、留学生のみなさんは世の中がいきなりこんなことになってしまって、心細いんじゃないかなーと思って、つい聞いてしまいます。

**まずはご飯ちゃんと食べて、寝ましようね。**（＝盛大な自分ブーメン）

④まだまだ世の中がどうなるかわかりませんが、心細かったり、不安だったり、寂しかったりするの私たちも一緒です。（こんな歳になってもそうなんです） 長〜い地球の歴史の中ではこういうこともあるわな、と、**気持ちを切り替えて、ちょっとでも楽しいこと、わくわくすることに目を向けて**いきましょう。ちなみに私は気持ちが落ち込むと、YouTube で猫動画をひたすら見続けるんですが、そのうち何を悩んでいたのか忘れてしまいます。悩みだけではなく重要なお仕事も忘れるのでほどほどにしないで、とは思っています。



## 学生相談室より

先生達からのメッセージ、どうだったでしょうか？教員にとっても人生初のこの状況下で、「遠隔授業」という経験のない形でも、なんとか学生の皆さんに「セイカの学び」を届けようと奮闘していたんだなあとは感じました。

**積極的な学生の意見がありがたかった**

**大学は学生がいなければ名実ともに成り立たない**

大学での学びは、知を伝えようとする教員と、学ぶ主役である学生の皆さんの「つながり」によってつくられていきます。学生の学びを支えようとする教員は、学生に支えられてもいるのです。

**あなたの世界は課題だけではない**

**気持ちを切り替えて、ちょっとでもわくわくすることに目を向ける**

**どんな状況でも自分を「楽しませる」ことを忘れないでほしい**

だからこそ、学生の皆さんの日々の充実やこころの健康はとても大切。学生相談室には「先生に相談したらサボってると思われるんじゃないかと心配」という声もよく届きます。でも自分を追い詰めてしまうぐらいなら、弱音を吐いてほしい、相談してもらいたい、と教員は思っています。

**全部、わたしたちがこれから何をするかにかかっている**

**この変化を恐れずに柔軟に行動して解決を**

そうしてトライ&エラーをしながら、この凄まじい変化の時のなかでも、自分の「表現」を探求して行ってほしい、世界とつながることを恐れなくてほしいと、学生の皆さんに向けて、願っています。

たいへんな日々をそれぞれが踏ん張った 2020 年度前期。いつも画面越しに会ってた先生、動画でだけ見たことのある先生、なんとなく勝手に怖い人だと想ってた先生・・・このガクソウ通信では、少しばかりその心に触れてみてもらえたら嬉しいです。

そして来たる夏休みには、少しでも心と身体をゆるめる時間を過ごして下さいね。

（学生相談室 山本）

ガクソウ通信 2020 年 期末特別版

2020 年 7 月 31 日 発行

京都精華大学学生相談室（本館 H-305）